

101-162

問題文

脂質異常症治療薬に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. フェノフィブラートは、ペルオキシソーム増殖剤応答性受容体 α (PPAR α)を阻害し、血中トリグリセリドを低下させる。
2. アトルバスタチンは、3-ヒドロキシ-3-メチルグルタリルCoA(HMG-CoA)還元酵素を阻害し、肝細胞の低密度リポタンパク質(LDL)受容体を増加させる。
3. コレスチミドは、LDLコレステロールの酸化を抑制する。
4. プロブコールは、LDL受容体に依存しない機構で血中LDLコレステロールを低下させ、家族性高コレステロール血症に奏効する。
5. ニセリトロールは、胆汁酸再吸収を抑制し、肝臓でのコレステロールから胆汁酸への異化を促進する。

解答

2, 4

解説

選択肢 1 ですが

フェノフィブラートは、フィブラート系薬です。PPAR α に結合して「活性化」させることで結果として、中性脂肪を低下させます。「阻害」では、ありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい選択肢です。

選択肢 3 ですが

コレスチミドは、陰イオン交換樹脂です。腸内で胆汁酸と結合し、大便と共に排泄されることにより胆汁酸の腸肝循環を妨げます。胆汁酸はコレステロールを原料にして作られるため、陰イオン交換樹脂存在下において胆汁酸がどんどん排出されると、不足した胆汁酸を補充するためにコレステロールが使われます。これにより、血中からコレステロールを取り込もうと肝細胞において LDL 受容体発現が促進されて血中コレステロールが減少します。「酸化抑制」では、ありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい選択肢です。

選択肢 5 ですが

ニセリトロールは、脂肪酸放出抑制薬です。記述は「再吸収の抑制」という部分は、陰イオン交換樹脂についてであり「コレステロールから胆汁酸への異化を促進する」という部分は、プロブコールなどの異化促進薬についての内容になっています。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,4 です。

参考)